

大豆作における難防除雑草 (クサネム、アメリカセンダングサ)の 耕種的防除法

- ・大豆の雑草は放っておくと大きくなり収量に影響します。
- ・雑草防除は、除草剤だけでは効きにくいものもあります。
- ・耕種的方法と除草剤を組み合わせた方法で防除しましょう。

(大豆の主な雑草)

イネ科、アメリカセンダングサ、クサネム、ホオズキ類
タデ類、ホソアオゲイトウ、キク科など

水稲、大豆の共通難防除雑草

クサネム

- ・1年生マメ科植物で種子繁殖。
- ・大豆、水稲作のどちらも発生
- ・大型株になると収穫作業に支障
- ・水稲では種子の混入が問題

アメリカセンダングサ

- ・1年生キク科植物で外来雑草。
- ・種子により繁殖する。
- ・大型株となると収穫作業困難

クサネム、アメリカセンダングサの防除対策

- ・大豆耕起栽培
大半の種子は7月上旬に出芽
↓
7月上旬の中耕をきちっと行うことで
残草量は減少
- ・不耕起栽培
アメリカセンダングサ
7月上旬のバサグラン液剤の散布で効果
- ・田畑輪間の実施
水稲作で雑草の出芽数減
↓
埋土種子量の減少
↓
水稲後大豆作は出芽数が減少



クサネム



アメリカセンダングサ

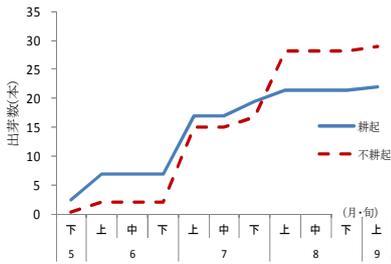


図1 クサネムの累積出芽数
注) 調査年次: 2009~2011、実施場所: 農業試験場
播種6月中旬

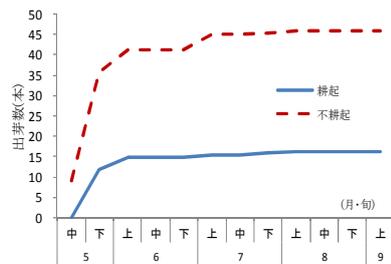


図2 アメリカセンダングサの累積出芽数
注) 調査年次: 2009~2011、実施場所: 農業試験場
播種6月中旬

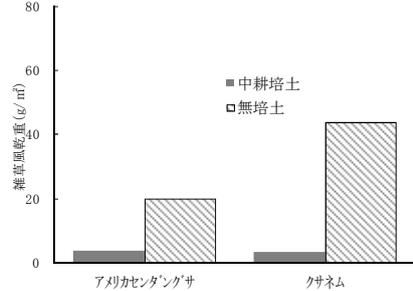


図3 耕起栽培における中耕培土の効果
注) 播種除草は播種時に除草剤散布
調査年次: 2008~2011、実施場所: 農業試験場
播種: 6月中旬、中耕7月上旬、培土7月中旬実施

クサネム、アメリカセンダングサの大半の出芽が終わった7月上旬の中耕を行うことにより、残草も少なくなります。

不耕起栽培のアメリカセンダングサは、7月中旬の大豆バサグラン液剤の使用で効果が高い。

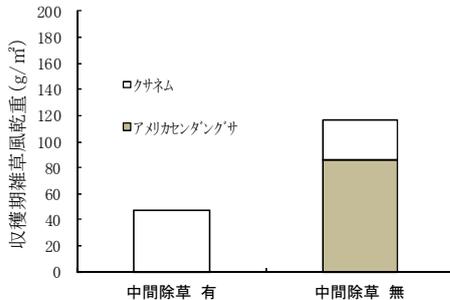


図4 不耕起栽培における大豆バサグランの効果
注) 調査年次: 2010~2011、実施場所: 農業試験場
播種前に茎葉処理剤、播種時に土壌処理剤散布
中間除草は大豆バサグラン液剤、7月上旬散布

クサネムの埋土種子量が増加すると出芽数も増加します。
→埋土種子量を減らす対策
→水田転換も有効

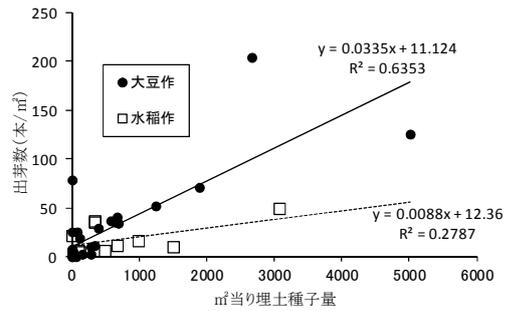


図5 クサネムの出芽数と春期埋土種子量との関係

輪作体系を行うことで水稲あと大豆作はクサネム、アメリカセンダングサの出芽数、埋土種子数は減少していきます。

表1 クサネム、アメリカセンダングサの輪作体系における発生状況

ほ場1	H21	H22	H23
	水稲	大豆	大豆
クサネム出芽数 (本/m²)	0.2	3	39
クサネム5月埋土種子量(m²)		6	748
アメシズ出芽数 (本/m²)	1	1	61
アメシズ5月埋土種子量(m²)		32	380

(注) 数値は田の平均値、残草量は大豆作で収穫期に計測
試験年次H21~H23、試験実施場所: 農試ほ場

ほ場2	H21	H22	H23	H23
	大豆	水稲	大豆	水稲
クサネム出芽数 (本/m²)	35	13	3	36
クサネム5月埋土種子量(m²)		461	147	351
アメシズ出芽数 (本/m²)	30	26	4	5
アメシズ5月埋土種子量(m²)		1106	1115	549

ほ場2のH23年は田を半分にして大豆作と水稲作を作付け

[成果の活用面・留意点]

- 大豆バサグラン液剤は、ホオズキ類の一部、アサガオ類の一部、ホソアオゲイトウ、シロザなどに効果の劣ることが確認されているので注意する。
- 取りこぼしたクサネム、アメリカセンダングサ、ホソアオゲイトウ、ホオズキ類等は大型化する可能性があるため、手取りを行うか非選択性茎葉処理剤等で畝間散布を行う。

問い合わせ先 : 鳥取県農林総合研究所 農業試験場 作物研究室
電話 : 0857-53-0721

※ 本書から転載複製する場合には必ず左記に許可を受けて下さい。